

品川弦楽団のオーストリアコンサートツアー

2013年7月31日〜8月9日、品川支部の生徒（小学生5人、中学生13人、高校生9人、大学生14人、OB2名）に引率スタッフ11名で、5回目の渡欧ツアーを行いました。準備に2年間を要しましたが、念願のオーストリア演奏旅行が、すべての参加者と聴衆の、心に残る感動の旅となりました。

関東地区ヴァイオリン科指導者 岡本和子



が止まらず、控室はもうい泣きもあり、「ワーワー」状態でした。

今回の準備は、2年以上前からスタートしました。世界でも5本の指に入る楽友協会ホールは、ホールの空気を調べたところ、8月6日のみ空いていることがわかったのです。楽友協会以外のホールと異なり、とても格式を重んじるホールです。さまざまな規則が厳しく、中でも費用の面では今回のツアーに重くのしかかって来ましたが、何度も挫折しそうにもなりましたが、ご父兄のご協力を仰ぎながら、企業の協賛をお願いすることができました。また「品川ケーブルテレビ」が全面的にご協力くださり、練習からツアーまで同行、番組を制作くださいました。その他の会場での演奏会は次のよ

■演奏プログラム

- ・モーツァルト：セレナード No.13 長調 K525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
- ・小倉 朗：弦楽合奏のためのソナチネ
- ・ヴィヴァルディ：合奏協奏曲「調和の靈感」 Op.3-10 口短調
- ・末廣 誠：弦楽合奏のための「三つの日本の歌」
- ・レスピーギ：リュートのための古代舞曲とアリア 第3組曲

■引率スタッフ

印田礼二、印田倫子、白井洋治、白井由美子、後藤裕乃、中陳伸子、七海浩一郎、七海裕子、野口美緒、山中美知子、岡本和子（留守スタッフ 為貝豊、為貝智子）

まずは、8月6日にウィーン楽友協会「ブラームスホール」でスズキトーンを響かせ、聴衆に大きな感動を与えたことからご報告しましょう。舞台いっぱいには並んだ生徒たちは、緊張とわくわく感の両方を持って、印田礼二先生の指揮棒を見つめていました。棒が振り下ろされると「アイネ・クライネ」の美しいサウンドが流れ始めました。モーツァルトを子守歌に育ったウィーンの聴衆の前でモーツァルトを演奏することに一抹の不安もありましたが、盛大な拍手に、子どもたちばかりかスタッフ一同、胸をなでおろしました。プログラム最後のレスピーギでは涙を流しながらお聴きくださっているお客様を目にすることができました。このホールの響きは、さすがです。弾

いていた生徒たちも「とても弾きやすかった」と感想を述べていました。全員が心をついに演奏した音は聴衆を魅了しました。アンコール最後の「八木節」では全員ねじり鉢巻き、指揮者はハッピを着て、うちわで指揮。各トップと拍子木の高校生も祭り絆縛。会場はどよめき、大喜び。終わっても拍手が鳴りやまず、さらにもう一度アンコールに応えました。チケットは残券がない状態で、とてもうれしい悲鳴でした。素晴らしい白髪の老紳士とご婦人が会場いっぱいにおられたのでモーツァルトの時代の貴族の世界にタイムスリップしたようでした。ヴィヴァルディの4つのヴァイオリンとチェロのソロのメンバーは、大きな責任からの解放感と感動で、演奏会終了後は大粒の涙



ヴォティーフ教会内は修復工事中でした。祭壇の前にはたくさんの鉄骨が組まれていましたが、美しいステンドグラスや何百年もの歴史を感じる教会内の雰囲気は、日本のコンサートホールしか知らない子どもたちにとって貴重な体験となりました（写真はアンコール演奏です！）



「ブラームスホール」での演奏終了直後のメンバーの様子です。会場の聴衆の興奮がメンバーにも伝わり、感極まる気持ちになりました



ウィーン楽友協会「ブラームスホール」で響いたスズキトーン。たくさんの拍手に大感激

うなものでした。8月2日は、今までに経験のない野外でのコンサートです。ザルツブルク音楽祭が開催されているこの期間、自由参加が許されている場所です。予定していたモーツァルト広場が急遽使えなくなり、近くのカピテル広場に移っての演奏でした。朝からの炎天下、次のイベントのために作られた大きなスクリーンとステージの日陰で演奏しました。たくさんの方が立ち止まって聴いてくださいました。午後はミラベル宮殿の中の美しい「大理石の間」での演奏です。モーツァルトも幼少の時に演奏した本場に美しい部屋で、映画「サウンド・オブ・ミュージック」の名場面の舞台となったところがたくさんあります。宮殿の横の階段は「ドレミの歌」の階段で有名です。事前に予定していたお客様も、たくさんのお客の方が聴いてくださいました。このような素晴らしい部屋での演奏は二度とできないような経験でした。

5日、午前中はシェーンブルン宮殿の見学をしました。広い宮殿の一部が公開されていました。午後は、いよいよ「ヴォティーフ教会」コンサートです。空に突き出るように建つ素晴らしい教会でした。このような教会のコンサートは毎回企画しています。ほとんどの作曲家や演奏家も昔は教会が主な演奏場所でしたから、生徒たちにも体験させたいからです。ヴォティーフ教会の演奏は聴く場所によっては面白い和音を作っていました。お客様は翌日の楽友協会のチケットが手に入らなかった現地の方々と観光客です。ここでもオーストリア在住の日本人の方がお見えになり「日本の曲に、とても心が和みました」と感想をお話くださいました。